

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地
令和元年度 第1回 西表島における持続的観光マスタープラン策定作業部会

議事概要

- 日時：令和元年11月19日（火）18:30～21:00
- 場所：竹富町離島振興総合センター 2階会議室
- 出席者（敬称略）

所属	役職	氏名
環境省那覇自然環境事務所西表自然保護官事務所	上席自然保護官	竹中 康進
	アクティブレンジャー	光森 康裕
沖縄県自然保護課世界自然遺産推進室	室長	小渡 悟
	主査	東江 二男
竹富町世界遺産推進室	室長	大浜 知司
	職員	高安 壮太
	竹富町地域おこし協力隊	井上 嵩裕
竹富町観光協会	副会長	大島 佐喜子
竹富町観光協会 宿泊部会	東部地区 委員長	石原 孝子
	西部地区 委員長	大島 佐喜子(再掲)
西表島エコツーリズム協会	会長	平良 彰健
	事務局長	徳岡 春美
西表島交通グループ	代表取締役社長	玉盛 雅治
いりおもて観光(株)	代表取締役社長	屋宜 靖
(資)浦内川観光	代表者	平良 彰健(再掲)
船会社代表((有)安栄観光、八重山観光フェリー(株)、石垣島ドリーム観光(株)の3社の代表者)	八重山観光フェリー(株) 常務取締役	黒島 一博
八重山交通安全協会西表島東部支部レンタカー部会	部会長	鍵野 昌宣
株式会社プレック研究所	統括部長	松井 孝子
	主査	西村 大志
	業務委託職員	矢尾 和也

■議事

1. 今後のスケジュールについて
2. 来訪者管理基本計画（案）について
3. その他

■配付資料

- 資料 1 検討スケジュール
- 資料 2 持続可能な西表島のための来訪者管理基本計画（原案）
- 参考資料 1 西表島の観光の受入容量に関連するデータまとめ
- 参考資料 2 利用集中緩和策の事例と効果

■議事概要

議題 1. 今後のスケジュールについて

- 沖縄県より資料 1 に基づき検討スケジュールについて説明が行われた。
- 質疑応答はなし

議題 2. 来訪者管理基本計画（案）について

- 沖縄県より資料 2、参考資料 1 に基づき来訪者管理基本計画の案について説明が行われた。
- 質疑応答は以下の通り
 - ・ 宿泊の受入人数が 2000 名、船の利用者が約 1300 名とあるが、滞在日数があるので、夏場は宿に空きがないような状態になっている。
 - 滞留する観光客数のデータが必要なので、現在西表の平均滞在日数を調べている。第 2 回の資料にはその結果を入れていきたい。資料では、水供給が夏場と GW に能力をオーバーしているというのが分かった。供給能力を増やすかどうかについては役場の水道課は検討中。年間受入容量の根拠は探せていない。観光客のマナー等についても色々な意見は出ているが、数字として出せるものとしては水道ぐらいしかないのが現状。
 - ・ 観光客数の数字の設定については、40 万人の 1.5 倍で 60 万人なのか 30 万人を元にするのかで印象が変わる。島民は、観光客が増えることでどのように生活が変わるのかを心配している。
 - 直近の数字でいくと、平成 30 年で約 30 万人となる。40 万人の 1.5 倍という数字が独り歩きしないようにしたい。
 - 他の地域で 1.5 倍という数字の根拠は。条件が異なる西表島に当てはまるのかどうか疑問がある。
 - 他の世界自然遺産登録地の入込客数の統計を根拠としている。
 - 1.5 倍というのは国内の文化遺産も含んだ値である。
 - 最初の 1 年は増えてすぐに減ったという報道もあったが。危機感を煽るのもどうかと思う。
 - 傾向として登録した直後に一気に増えるが、数年で落ち着いた数字になる。
 - 1.5 倍という数字は精査する。
 - 最初は 1.7 倍だったと思うが。水道の供給量から算定しているが、町長は管を増設して大きなタンクをつくって対応するという話をしているので、前提条件が変わるのではないか。
 - 数字の設定には時間がかかるので、そこは丁寧に 1 年見て次はどういう設定にするか細かく時間をかけてやっていく必要があると考えている。
 - 1 年で元に戻るとすれば、1 年間は対策をしてその後は規制を解くことになるのか。
 - 1、2 年で済むというのは仮定なので断言はできない。仮に 45 万人来られたとしたらサービスが追いつかないので、これを仮に 35 万人に抑えたとすれば対策としては成功だったと言えるのではないか。
 - 1 日 1000 人で考えると年間 365,000 人を最大とするのか、また日帰りや宿泊でも変わってくる。東部と西部のパイの取り合いということにもなるのではないか。
 - 1 日 1000 人が毎日入ると 365,000 人となるが、その人数が良いとしているわけではない。住民説明会でも、今以上には増やしたくないという意見が多く、それらの意見を踏まえ考え方のその 1 を設定している。役場として滞在型観光を推進しているので、それに向かって移行してい

- くという考え方もその3に入れている。滞在型観光を目指しているところは多いが成功しているところは少ない。座間味島等も外国人の日帰りが多くなかなか難しい。
- 1 日当たりの容量の設定とあるが、強制力がないのであれば目標の設定とするのが良いのではないか。
 - 強制力もないし法律もない。国立公園の利用の制限については利用調整地区という制度があるが島全体を対象として規制する法律はない。表現については検討する。
 - ・水道は一つの目安になるのは理解できるが、島民の懸念は他のところにあると思う。それを制限するような方法はないのか。滞在型観光を推進し宿泊を推進すると水の使用が増えていくことになるので、今の1.5倍、2倍の水を確保する必要が出てくる。
 - マナーの問題、港の駐車場の利用の仕方、トイレでの着替えなどがある。一部ガイドのフィールドの利用の仕方の問題もあるが数値化となると難しい。
 - ・数値化するのにもっと他に指標はないのか。フィールドに出ているガイドが自然を案内するだけで日帰り観光客が水をそんなに多く使うとは考えにくい。
 - カヌー等の船を洗うのに水を大量に使う。
 - 実際に観光客が使うのは、例えば由布島であればほとんどがトイレの水になる。
 - 宿の数字は平均宿泊数が分かればもう少し細かく出る可能性はある。
 - フィールドの利用などについて水道の使用量でコントロールできるのか。
 - どれぐらいがフィールドに入るのが適切なのかについては、エコツーリズム全体構想の中で議論しており、モニタリングの結果も踏まえて調整していくことになる。水の利用については農業者の利用なども含め数字を当たって、今後継続しながら設定していく。
 - 水の使用という指標が実際の観光客とマッチしていないのではないかと考える。日帰り率、宿泊率はデータに載っていない。
 - 来島者に占める宿泊率は竹富町全体の数字は32%と出ていて、平均宿泊日数も町全体ではある。西表の平均宿泊日数が分かれば島内滞留客数ももう少しはっきりする。一般住民の水使用量に対して、宿泊客の水使用量は85%、日帰り客の水使用量は15%という数字が竹富町の排出される下水道の算定根拠となっている。平均宿泊日数が分かれば算定しなおすことが可能。仮の計算では1300人程度となっていて、1300を超えた日は現状では殆どないので、それがおおよその目安となる。1日の島内滞留客数をピークも含め現状レベルに抑えることで、住民生活に多大な影響が生じないようにできるのではないかとというのが現時点での結論となる。
 - そうすると宿泊が増えると入込客が減るのではないか。
 - 宿泊が増えると1日当たりの入込数を下げて宿泊率を上げることになる。それによって地域の生活には影響なくお金も落としてもらえるようになる。
 - 船会社の売り上げは下がるが、その分の補助はあるのか。利益を追求している会社である以上、それを100%受け入れることはできない。人を運ぶことで利益を上げているので、水をあまり使わない日帰りの観光客を運んだ方が、利益が上がることになる。上手く皆が納得できる数字を出してほしい。
 - 精査した数字は次回出せるようにしたい。住民の水使用量に対して宿泊客が85%、日帰り客が15%ということなので、一日の入込観光客の数字は1000人よりも大きくなる。
 - ・40万人を超えて影響があったと言われているが、西部ではその実感はなかった。西部で7万人を超えたというここ3年位の方が混雑している実感がある。レンタカーの数、人の数、港の込み具合等によって島民の感覚は異なる。

- 40万人という数字を入れるかも含め表現については検討する。
- 西部は大型バスで移動する東部と違って車で移動する人が多いので混雑しているように感じる。その辺りで、住民の実感の仕方が違うのではないかと。住民を説得するのであれば別の方法が良いのではないかと。
- 水道しか今のところないが、マナーや車のスピードなど、住民として感じているのは理解できるので水道以外も表現の中で入れていきたい。
- ・経営者の高齢化もあって宿泊容量は今後減っていく可能性がある。減ったときにそれを規模の大きなホテルで代替するのは違うのではないかと。相良川（東部第2）で生活用水の給水制限があったのに、小浜島のリゾートホテルのプールは普通に稼働していた。贅沢として使う水をどう規制するのかということだと思ふ。風呂の使い方も含め宿泊客が島民の85%というのも宿泊施設の施設等によって違うのでは感じる。
- 算定の際には一律の数字が必要なもので、85%の数字は使うかもしれない。西表島のホテルは別供給だったか。
- 規模の大きなホテルは供給は同じだがタンクを自前で持っている。東部第2の半分は小浜島が使っていて、夏場に増えているのは西表ではなく小浜のものと考えられる
- 水道のデータを見ると小浜が東部第2の9割を使っている。実際は大型宿泊施設の影響が大きい。
- 大型ホテルについて竹富町は個別に供給契約を結んでいるのか。
- 一定以上だと貯水タンクを取りつけるという覚書を交わしているが、水道供給施設は同じである。
- ・東部第2については、小浜島の影響は数字で見れば明らかなので西表への入域との相関はあまりないと考えられる一方、それだけ消費された残りを使っているというのもあるので、現状としてある程度の対策は必要と考える。宿泊の話が出たが、滞在型へのシフトと考え方の3に入れたがこれについて意見はあるか。
- 基本的な考え方の1は消したいぐらい。昨日も福岡で誘客のキャンペーンをしてきたところ。3（滞在型）にシフトしていくというのが重要ではないか。とりあえずの数字は挙げてもいいが、根拠やチェック機能、強制力もない。入域規制については屋久島でも検討されたが、宿泊組合から訴えられそうになったことで実現しなかった。一方的に西表に入る数だけで決めていいのかというのも疑問。滞在日数も目的によって異なり、ダイバーは3、4泊するので延べ人数だと年間6000人になる。目的がはっきりしているリピーターは数が出ている。誘客キャンペーンで福岡では去年から星空講習会を開いている。星に興味を持った方が日帰りではなく離島にも泊まってもらえるようにキャンペーンしてきた。
- 3が一番に持ってきたらという意見だが町はどう考えるか。
- 町では滞在型を進めていくという方針だがまだそこまで辿り着いていないのが現状。世界遺産登録を目指して色々動いている中で年間を通しての平準化を打ち出していけばよいのではないかと。来てほしいが40万人とか増えすぎると住民生活にも支障があるというのがジレンマ。
- 西部で7万人だと影響が大きい、東部ではバスで動いているので何十万人入ってもあまりそれを感じない。人数が増えたから自然が壊れるのではなく、人数が増えても環境を壊さない観光の在り方を考える必要があるのではないかと。観光地を分散する、山に入らせないためには麓で満足できる受け入れ施設をつくるなど観光客を受け入れるスタンスの方が良いのではないかと。

それには何年もかかるので、今年はこれぐらいにしようといった形が良いのでは。毎月時間を見つけて大都市圏に営業に回っているので、単純に1000名と言われても困る。

→住民感情に関わるのは人数ではなく、港で車が止められない、荷物が取りに行きづらいという点。大型犬を飼っている人は大見謝川等で泳がせられない（いつの時間帯に行っても川が使えない）こと等。山の中を歩いていると、故意でなく自分の身を守るために自然を壊すこともあるわけで、本当に守っていくのであればロープを張るなど人の手を入れる必要があるのではないか。

→色々な意見が出たが、環境省としてもIUCNの提言に答える必要があり、沖縄県にもジレンマがある。町役場の意向も尊重していて、滞在型への移行だけでなく平準化についても目指すところだと考える。順番も含め持ち帰ることにしたいが、その1について他に意見はあるか。

・受入人数を設定するのは難しいとはいえ、45万、50万人となったら必ず影響は出る。現状よりも増やさないとというよりも急増させない策を考える必要があるのではないか。

→船の容量があるので、50万人になることはない。多くても40万人程度ではないか。

→今は観光の形態が以前と異なるので、今の状態で40万人を超えたら大変なことになる。

→ツアーは時間帯でコントロールし易いが、フィールドの方は時間帯が重なるためコントロールしにくくて問題。これも役場がガイドを規制することである程度のボーダーラインが見えてくるのではないか。

→ガイドの人数を役場はどれぐらいが最大と考えているのか。

→ガイドの登録によって簡単に事業所を立ち上げられなくなるため、急激な増加をある程度抑えられる。研修などを通じて質も上げていく。ヒナイ等一部では総量規制の検討はしているが、フィールド毎のルールを決める中で立入り人数の総量を決めていくのは難しいため、ガイド1人当たりの人数等を設定しある程度抑えていくことを検討している。

→観光客の人数を規制するのは難しいので、ガイドの最大人数を決める方がコントロールしやすいのではないか。

→これから世界遺産登録を機にガイドが一気に増えるということはないのではないか。

→既存事業者がガイドを増やして対応すると増えるのではないか。団体客から個人客にシフトして、人数は減ったのに問題が発生してきた。ヒナイで動力船規制がかかった時にカヌー組合ができて、それが元で他のフィールドに広がっていった。仲間川保全利用協定も紳士協定だが、こういったことも同じようにするのか。特別な島なのであらゆる事業所に対してきちっとルールを守らせる必要がある。レンタカー会社も安全基準や営業所の基準で規制できる。港についてもルールを設定する。大原公民館では港まで歩いて行くように呼びかける等もしている。増築はすぐできないので住民も協力して使い方を変えていく。ガイドが港に迎えに来ているが、路線バスを使って現地集合にしてもらおうといったこともできないか。こういった工夫で住民に負担をかけない方法はまだまだある。迷惑というのは、我々の情報が足りないために観光客が粗相をしてしまう。特別な島でヤマネコもいますというのをもっと情報発信して、負荷をかけないような管理をしていくのが最初ではないか。それをやらずに制限というのは本当に実効性があるのかと考える。宿泊もどういった客をターゲットとするのか。石垣と競争するのではなく、西表に来たい人のニーズをつかまえていく必要があるのではないか。ATMが島に2か所しかなく不便けど快適にということで、キャッシュレスを導入し利用が40%近く加盟店で九州一となった。町もどういうビジョンを持ってやっていくのか。今欧米系の人が多いが、こういう人たちをターゲットにするにはどのような準備をしていくか。観光客に押し付けるというこ

とではなく、我々がどのようにしていくのが重要と考える。少し窮屈になっていくが、それが島の人にとっても自然にとっても良いと考える。

- ・方針4に加えて西表特有のルールなどを入れていく。考え方その1の数字については、過去3年、過去5年、過去10年の平均観光客数など検討したが、数字は入れた方が良いかどうか。
- 10年の平均となると東日本大震災を含んでいて、これを観光客数の推移として使うのは難しいので、数字はない方が良いのではないか。
- 何らかの意思表示は必要。急増するのは防がなければならないので、地域として自然と住民生活を守っていくためにどのようにしていくのかの方向性は書くべきと考える。
- 急増は防ぎたいという意思表示はどうか。表現については考えるが。
- 島で対策を取れば多くの観光客を受け入れられるかもしれないが、すぐに対応するのは難しいので、現状から急激に増やさないような方針をとって、1日当たりの人数を目安としながら調整していき、日帰り中心の観光から島のルールも守って長く滞在してくれる観光に移行していくという、変化と目安と質という3つの観点を入れて基本的な考え方を書き直していく。そこに数字を入れるのはどうかという意見と理解したが、いかがか。
- 基準としては現状というのは使っても良いか。
- 現状より増えるのは明確。
- スパンはどれぐらいで見ているのか。
- 数年を見ている。屋久島は遺産登録後に増加した年数が非常に長かったので10年以上伸びて15年ぐらいで下がった。
- 西表は既に多いので同じように増えるかというよく分からない。
- 誘客やメディアへの露出を増やすなど色々な対応が行われていくと考えられる。記念ボトルやTシャツをつくるという話もあり相乗効果は広がっていくのではないか。
- 目標はずっと変わらないのかというそうではなく、数字としては設定しないものの、モニタリングを必ずして2年を目途に見直すことを考えている。
- 急増させないが将来にわたって長く一定の容量を確保していくというのを一番に立てれば良いのではないか。
- 期待している人たちは我々も含めている。観光客増に対して投資も考えるわけで、経済的な期待はある。
- 観光客が増える懸念も出ている中で、急激に増やさないようにする一方、インフラ整備や方策も含め受け入れる仕組みをつくっていくのは良いのではないか。
- 急激なというのは表現として大丈夫か。
- 環境や住民生活への影響を懸念する声に応えていく必要もあるし、そのための対策も取っていく必要があると考える。
- 急激なという言葉と、持続可能なというのを盛り込んで、住民の意見にも配慮して事務局で修正したい。数字については精査する。
- ・来年9月にヘリや潜水艦を搭載した大型クルーザーが沖に停泊することが決まっているという話が来ていて、それに関して規制があるかという問い合わせがあった。上陸してフィールドに入るのであれば許可されたガイドを付ける必要があるという話はしているが、ヘリや潜水艦の影響をどうするのかという話もある。
- 石垣市にある沖縄シップスエージェンシーという代理店がある。全てクルーズ船がその会社を通して入ってアクティビティをするそうだが、ヨーロッパのお金持ち200人程度を載せたク

ルーズ船なので大きなトン数ではないが、港に着けられないので外パナリや崎山に沖泊めしたいと言ってきたので、絶対沖泊めしないでほしいと伝えた。停泊するなら船浮のブイを取ること、陸域は認定ガイドを使うことを伝えた。ゾディアック（ゴムボート）でビーチに着けるのは可能かと聞かれたので、月が浜には着けられるが、バスが入って来られるもののUターンはできないので、きちんと港で許可を取った方がいいと伝えている。代理店も住民感情を逆なでするようなことはやりたくないなので断る口実を探していたようなので、役場の上地さんと話を断る方向になっていると思われる。

- 石垣はそういった富裕層のスーパーヨットの寄港を歓迎している。先週も地元のガイドを使って上陸してということがあったので、そういうものの人数はここではコントロールできない。
- 定期船を対象としているのでこのケースは想定外。そういったものも盛り込めるか検討したい。

議題3. 島民への情報公開や意見聴取の方針について

- ・地域部会の中で、会議をオープンにしてほしいという意見がある。数字が独り歩きすると困るので、基本クローズにしていた。地域部会のメンバーにはオープンにする方法もあると思うがどう考えるか
- 明らかに建設的な意見を言っているのであればよいが、そういう感じではないので公開しない方がよい。
- その方向で回答することにした。
- その代わりではないが、議事録は概要ではなく詳細なものを地域部会に出すということが良いか。
- 地域部会以外に住民向けの説明会は行うのか。
- 素案をつくった段階で公民館長には説明をしている。住民に直接伝えるのは必要と考えているので、並行して進めているエコツーリズム全体構想とあわせて取り組みの経過を伝える機会をつくる必要があると考えている。
- 環境省の方で進めている入域料の話も含めて島民から意見をもらいたいと考えている。(竹中)
- その辺りも含め、素案がいつできていつ住民説明会がなされるのかが分かれば住民も納得するのではないか。

以上